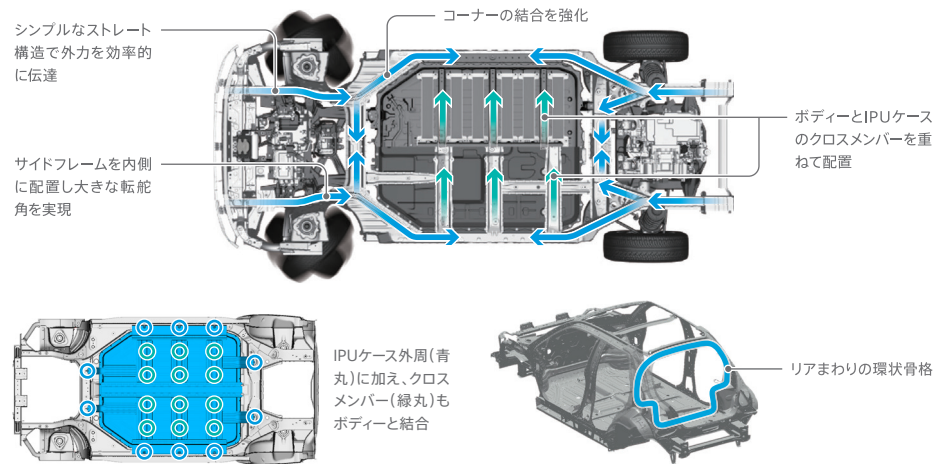


街なかベストのサイズと 高強度・高剛性を 実現する Small EV 専用ボディ

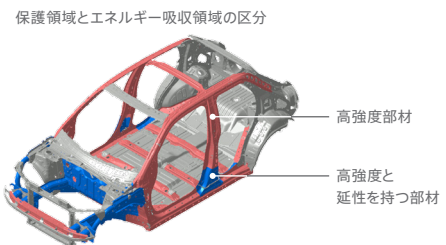
Honda e は街なかベストのコンセプトを実現するために、Small EV 専用のプラットフォームを新設計しました。短いオーバーハングでも衝突時の安全性を確保するために、フレームをシンプルなストレート構造としました。フロントサイドフレームを内側に配置し、タイヤを大きく転舵させることで小さな回転半径を実現しま

す。また、衝突時にバッテリーを保護するため、フロアコーナー部の結合を強化し前後衝突入力を分散させます。側面からの衝突に対してはインテリジェントパワーユニット (IPU) ケースの中に高強度のクロスメンバーを配置し車体と結合することでバッテリーを保護します。車体と IPU ケースを一体化することでフロア振動を低減。さらに、リアまわりの環状骨格による効果とあわせて車体剛性を向上。きびきびとした走りを実現します。



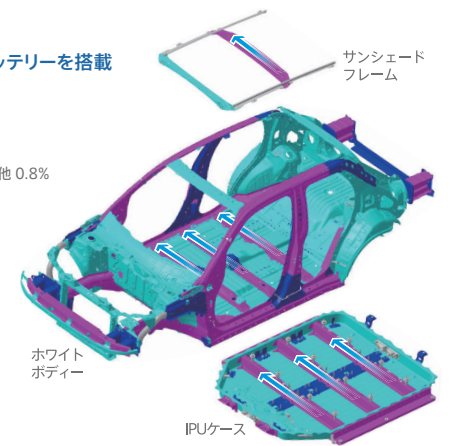
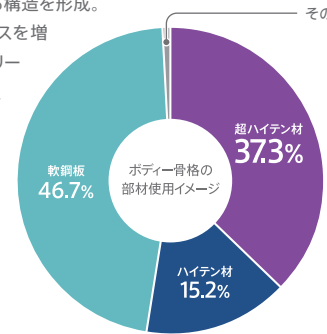
衝突時の入力を効率的に吸収する Small ボディ構造

衝突時、乗員や高電圧部品の保護空間を構成する骨格は変形を抑制するために高強度部材が求められます。また、衝突時に変形しエネルギー吸収を行う部位には高い強度と延性を持つ材料が求められます。Honda e は必要な特性を持つ材料を最適な位置に配置しました。

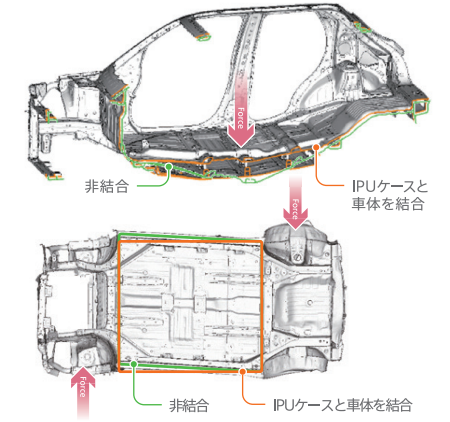


ホワイトボディ、IPUケース、サンシェードフレームにも 超ハイテン材を適用することで、小さい車体いっぱいバッテリーを搭載

超ハイテン材をホワイトボディだけでなく、IPUケースやサンシェードフレームにも適用することで、側面衝突時の入力を効率よく伝達させる構造を形成。横方向のロードパスを増やすことで、バッテリーの容量を減らすことなく、非常にスリムな車体サイズと優れた衝突安全性を両立。



IPUケース結合の有無による車体剛性の違い(イメージ)



フロア骨格とIPUケース骨格とを 結合することで乗り心地を向上

Honda e は、車体のクロスメンバーとIPUケースのクロスメンバーを同じ位置に配置しお互いを結合しました。IPUの外周の結合と合わせて22カ所を結合することで、ボディの曲げ剛性やせん断剛性を向上させました。これにより、凸凹路や車線変更での振動の少ない乗り心地や、静かで快適な室内空間を実現します。

リアストラットサスペンションの入力を リアまわりの環状骨格構造で受け止める

ストラットサスペンションからの入力を受け止めるために、リアまわりに強固な環状骨格構造を形成しました。

また、ガゼットやバルクヘッドを効率的に配置し局所的な剛性を高めることで、きびきびとした運動性能の向上に貢献します。

